

ともしび

子どもたちに教えられた私の姿



井上直之
(釋直道)

二月には古河市にも雪が積もりこの春小学五年生と三年生になる娘たちが雪だるまを作りました。

最初は「こんな寒い中よく遊んでいられるな」と思いながら子どもたちの様子を見ていましたが、しばらくすると、自分もはしゃぎながら雪だるまを作っていた子ども達の頃を思い出して、色々と考えさせられました。

実は、この雪だるまを作る前に私たちが家族は、休日だったのでご飯を食べに行きました。すると、大きな声が聞こえるので気になって振り返ると、私たちのテーブルの横には同じような子ども連れも家族がおり、自分の子どもに苛立ち叱っている父親がいたので、罵倒するような厳しい口調だったので、私は心の中で「ガラの悪い嫌な親だなあ」と思っていました。それが、それを見た自分の娘たちがヒソヒソと「なんか怒ってる。パパみたいだね」と話しているのです。これにはショックでした。

怒っている自分はこんなに醜い姿なのかと……。

思い起こせば、子どもを授かるご縁をいただいたときは「この子が元気だったら他に何もいらない」と思っていたのに、気づけばテーブルにジュースをこぼしたことを叱り、宿題をサボったことを怒っている私がいることに気づきました。

親鸞聖人は「凡夫というは、無明煩惱われらが身にみちみちて欲もおおく、いかりはらだちそねみ、ねたむ心おおくひまなくして、臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」と仰いました。

これは、真実が分からず、欲や怒り、妬みと言った煩惱が死の瞬間まで絶えず沸き続ける、愚かな存在である「私」の姿をありのままに示された言葉です。そして、私を苦しめるものは、他の何物でもない、私自身であるという事実です。

「なんか怒ってるパパみたいだね」と言われてショックだったこの出来事がなかったら、私は風邪をひくリスクを考え「雪だるま禁止！」と子どもたちに言っていたかもしれません。

私は親になり、いつの間にか自分の都合を優先し、損得ばかりを考え、完成した雪だるまを皆で見る素敵な景色を忘れていました。

私自身も、子どもの頃に親が観てくれたアニメ「スノーマン」に影響されて、たくさん雪だるまを作っていたこと、あのときの楽しかった記憶、娘たちが大切なことを思い出させてくれました。

自分中心で物事を考えすぎると私たちは幸せの中にありながら、その幸せを感じられなくなります。それでも、自分中心に物事を考え、煩惱に苦しんでいる私たちが存在するからこそ、様々な仏縁がいつも私たちを照らしてくださっているのです。

永代経では、皆さまとともに、ご先祖はもちろん、たくさんのお仏縁、ご縁に感謝させていただきながら、仏説阿弥陀経をお勤めいたしましょう。(住職)

駐車場拡張について

お寺の法要や行事の度に皆さまにご迷惑をおかけしている狭い駐車場を、拡張するための工事に取リかかることになりました。

建物の解体や植木の伐採等、難しいことが色々ありますが、境内地の有効利用のため、役員さんたちと知恵を出し合っています。

茨城西組 女性のつどい

昨年十一月四日、五年ぶりに組の女性のつどいが開催されました。「女性のつどい」とは、婦人会と寺族女性がともに学ぶ研修会です。今回は横浜・なごみ庵の浦上さんご夫婦にお越しいただき、詩人金子みすゞについてのお芝居を鑑賞しました。

六十名近くの方にご参加いただき、涙される方も多く、その後の茶話会も賑やかで、有意義な一日を過ごすことができました。



浦上智照さん



浦上哲也さん

みすゞは、離婚が決まり、夫の元に一人娘を奪われることに抗議して自らの命を絶ちました。親権がない、という当時の女性が置かれた厳しい状況は、想像することも難しいです。

みすゞの命がけの願いが夫の気持ちを持ちを動かし、娘さんはみすゞの母が育てることとなりました。母が一人で亡くなっていったことを恨んで生きた娘さんでしたが、後に見つかったみすゞのノートから母の愛を知り、幸福な心境で晩年を生きたことができました。

「花まつり」参加者募集

四月十二日(日)、キッズサンガ「花まつり」が開催されます。毎年、子どもたちが集まり、とても賑やかな一日です。

お勤めをしたり、お釈迦さまに甘茶をかけてお参りします。お齋は、宗願寺名物筒カレーです。サラダや苺寒天、シフォンケーキも作る予定です。小学生を中心に、保護者の方もご参加ください。

子どもたちの心の中に、お寺の思い出を作りたいという願いで、いつも楽しく準備をさせていただいています。人数の把握をしたいので、参加希望者はお寺までお電話ください。

花まつり(子ども会)
4月12日(日) 午前11時

宗祖降誕会
4月29日(水) 午前11時

あじさい忌
6月23日(火) 午前11時

全戦没者追悼法要
8月15日(土) 午後6時

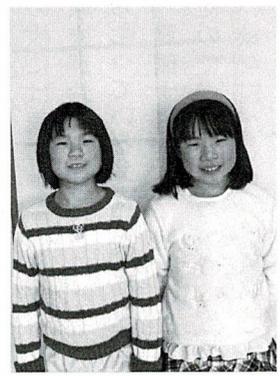
恵信尼公法要・敬老会
9月16日(水) 午前11時

千鳥ヶ淵・全戦没者追悼法要
9月18日(金)

報恩講
10月25日(日) 午前11時

彩弥と弥那との日々

井上明寿子(釋妙寿)



彩弥(左)、弥那(右)

法要を終えたある日のやりとりです。

ふと、娘たちに「パパやママ、ねねは法要で何をしていますか？」「と聞いてみました。弥那は「お経を歌ったりお話をします。」彩弥は「亡くなった人をお浄土に送る。」と言うので、良い機会だと思いつつ踏み込んでみることにしました。

「そうだね。お経は歌うというよりあげるとか唱えると言うね。彩弥は……お浄土に往けない人もいると思う？」と聞くと、小さな声で「送ってあげないと迷っちゃうんじゃないかな」と言いました。なるほどと思いつつ「そうだね。じゃあきちんと話しておくれ。例えば、じいじ(私の父)は今お浄土にいるんだよ。亡くなった人は皆お浄土に行くよ。」と言いました。

そして、迷っちゃうかもしれないという心配は、今ここに私たちが問題であって、誰も迷うことなくお浄土で仏さまになるのだと繰り返しました。すると弥那が「今じいじは自分がどこにいるか分かるけれど、弥

那たちにはそれを教えられないというところ？」と聞き返しました。

鋭い質問だったので、私もゆくりと「じいじからは直接連絡は来ないけれど、仏さまになってはたらきという合図を送ってくれているよ。見えないけれどね。」

例えば二人ともなんまんだぶつと言って手を合せるよね。それを少しでも大切なことだと感じるならそれが合図なんだよ。ママがこうして話しているのも合図のひとつだよ。

じいじはいつも見守ってくれているけれど、遠くから見張っているのではなくて、心の中で大切なことを教えてくれる存在になっているんだよ。」と言いました。

二人にはまだ早い内容でしたが、回向という仏さまのはたらきに触れて納得するものがあつたようです。

私も、子どもに理解できる言葉を見つけないが、少しずつこういった機会を増やしたいと思いました。(坊守)

最近、心の中にあること

井上由美子(釋由真)

十二月に、百歳の方のご葬儀を二件お勤めしました。どちらも女性です。お一人は亡くなる前日まで、ご自身の強い意志で子どもさんたちに見守られながら一人暮らしをされていきました。

お寺を大切にしてください、私にとつては思い出深い二人のおばあちゃんたちです。

その長寿を讃えて、お二人ともに法名には「寿」の文字を使わせていただきました。

お寺のおばあちゃん(父の母)は九十五才で亡くなるその日も普通に歩き、食事をしていました。認知症になることもなく、周囲からは「お元気で羨ましい」という言葉をかけられることが多かったです。

ただ、すぐ傍で暮らしていた私には本音で語ることも多く、私自身高齢となった今、思い返しては身に染みる言葉がたくさんあります。

「由美ちゃん、年寄りの苦しみというの、なつてみなければ決して分からないものだよ」とよく言いました。

大好きだったお寿司も食べたいと思わない、大好きだったテレビを観てもちつとも面白くない、そんな言葉を聞いたこともあります。

祖母は幼い長男(恭一さん、行年五歳)を疫病のような病気で亡くしています。その子が病気になる前に、仏さまやお浄土についてしつこく質問してくるので変な子だな……と思つたこと。幼いながら何か感じていたのだと、後から分かつたとも話してくれました。

私が子どもの頃シュークリームを食べたら、祖母が「恭ちゃんはその美味い物一度も食べないで死んじゃった」と悲しそうに言い、私も胸がいっぱいになつて、味が分からなくなったことがあります。

祖母は長く生きた分、悲しみ苦しむもたくさん経験したのです。

「寿」の法名をいただいたお二人にも、喜びや悲しみがあり、老いの苦しみもあつたことでしょう。

SNSで、末期癌と闘う若者の姿が流れてきて、衝撃を受けました。どんなにか苦しく、無念なことでしょう。どうしてあげることができません。

長さではないと分かっているも、若いうちに死んでいかなければならないのちを目の当たりにすると、冷静ではいられません。

時間を無駄に使ってはいけない、常に一生懸命に生きなければ、と気づかされながら、忘れてしまう自分が情けないです。

最近、胸の中にあることを綴つてみました。(副住職)

優しいみくり(弥栗)ちゃん



コタツの中です

二月八日の雪の朝、集会所のコタツの中に色々な物が入っていました。ロボのイーヨや魚のぬいぐるみ等、みくりが夜の間に運び入れたのです。自分が寒いから友達も寒い、温めてあげようと頑張つたみくり。自分さえ良ければいいという人間もいるのに、偉い!

編集後記

コロナの騒ぎが終わり、日常を取り戻しつつある中、お寺がとてもしんどいと思うことが多くなりました。

お寺が忙しくて大変だと言いつつ、突然あることに気づきました。それは、自分の仕事で以前よりも遅くなったということです。

パソコンの周りに資料を置いてきて!と思つてもなかなかエンジンがかかりません。

お料理やお菓子作りも時間がかかるようになった気がします。それもそう……後一年経ったら後期高齢者になるのですから。

二月の誕生日には、家族や友人たちからプレゼントをいただきました。そのほとんどが日本酒であることに、我ながら呆れます。

しっかりと働いた夜のお酒は美味しいです。ご飯も美味しいです。両膝の人工関節のことを考えると、太つてはいけないので、ちょうど良い体重を保ちながら、最後の前期高齢者の一年間を生き抜きます。合掌

発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真
(由美子)
(印刷所・阿部印刷)

仏教壮年会 第2土曜日

午後6時
16日 午後1時半

宗願寺ホームページ



宗願寺ウェブサイトURL
<https://souganji.com/>